

カヌー部 全国で活躍誓う

南富良野高 3種目で12人出場へ



【南富良野】町内東鹿越のかなやま湖で開かれた全国高校総合体育大会（インターハイ）カヌー競技の北海道予選（道高体連など主催）と記録会で、南富良野高カヌー部の12人がインターハイ出場を決めた。部員たちは「全国の舞台で活躍したい」と意気込んでいる。

「フォーム、練習段階で完璧に」

出場種目はカヤック500級の1人乗り、2人乗り、4人乗りの男女各3種目。出場を決めたのは、1年の草野敦さん、新田大志さん、佐藤美七海さんと、2年の益田洲さん、鐘ヶ江湊さん、佐藤和音さん、加藤瑞生さん、細井湧斗さん、村田希野さん、佐藤茉莉さん、大谷篤史さん、3年の神崎百花さんの計12人。

6日の予選は強風のため、一部のレースのみ行った。大半の競技は13日に記録会として実施した。例年とは異なる形式だったが、部員たちは日ごろの成果を発揮した。

全国高校総体に向けて意気込む南富良野高カヌー部のメンバー

1人乗りと2人乗りで出場を決めた益田さんは「緊張してもフォームが崩れないよう練習段階で完璧にしておきたい」と強調。2人乗りの鐘ヶ江さんは「全国（のレベル）に追いついて追い越せるくらい頑張る」、4人乗りの大谷さんは「初めての全国、声をかけあって息を合わせる」と意気込む。2人乗りの佐藤和音さんと村田さんは、記録会ではいい結果が出せたと喜ぶ。「ペースをつくるのは前に乗る自分の責任」（村田さん）、「息を合わせるのは後ろの役割」（和音さん）とコンビネーションの大切さを話した。

部員15人のうち、3年生は1人で2年生が中心に活動している。顧問の広島晶教諭（24）は「表彰台を目指すのも大事だが、未来の自分のために経験をしてもらいたい」と語る。

インターハイは8月1日から、島根県美郷町で開かれる。（川上舞）